令和3年度災害廃棄物住民啓発モデル事業

「（住民用）災害廃棄物搬出等マニュアル」の作成について

豊中市環境部減量計画課

40万人のとよなか未来バトン
SDGs to 2030

内　容

1．豊中市の概要

2．豊中市における災害廃棄物対策の歩み

3．災害廃棄物搬出等マニュアル作成支援

40万人の
とよなか
未来バトン
SDGs to 2030

1．豊中市の概要

- 人口　400,077人（令和4年6月1日現在推計人口）
- 面積　36.6 Km²
- ＰＲ　高校野球発祥の地、マチカネワニ化石、
  　　大阪国際空港、救命力世界一宣言など

40万人のとよなか未来バトン
SDGs to 2030

2. 豊中市における災害廃棄物対策の歩み

協定・計画関連

平成26年4月	市内収集運搬許可業者及び仮設トイレ等の供給に係る各協定の締結
平成27年7月	北摂地域における災害廃棄物の処理に係る相互支援協定の締結
平成28年6月	災害時対応マニュアルの策定
	災害廃棄物処理計画策定モデル事業の採択
平成30年3月	豊中市災害廃棄物処理計画の策定
平成31年4月	災害時対応マニュアルの改定
令和 3年4月	災害廃棄物処理住民啓発モデル事業の採択

主な研修会

平成26年	簡易トイレ搬送及び設置訓練
平成27年	救急救助訓練及び道路障害物除去訓練
平成28年	救援物資搬送及び簡易トイレ搬送・設置訓練
平成29年	三者（伊丹市・豊中市伊丹市クリーンランド・豊中市）合同研修
令和元年	災害時対応マニュアルによる研修
令和 3年	マンホールトイレ設置訓練

40万人の とよなか 未来バトン SDGs to 2030

課　題

- 災害廃棄物処理計画で想定する仮置場面積の確保
- 災害廃棄物処理に係る資機材等の確保
- し尿処理対策の強化
- 発災時の周知・広報
- 減災や事前対策を推進する住民啓発　など

40万人のとよなか未来バトン
SDGs to 2030

3. 災害廃棄物搬出等マニュアル作成支援について

目　的

災害時に無秩序に排出される廃棄物を軽減させ、適正かつ迅速な処理へとつなぐためには、しっかりとした住民啓発が不可欠であり、行政と自治会等が連携した災害廃棄物対応の確立に向けた取組みを推進することを目的とするもの

支　援

環境省近畿地方環境事務所

大阪府環境農林水産部循環型社会推進室資源循環課

応用地質株式会社

40万人のとよなか未来バトン
SDGs to 2030

スケジュール

・事前打合せ（4月20日）

・初回打合せ（8月6日）

・第2回打合せ（9月2日）

第1回ワーキング会議（9月16日）

・第3回打合せ及び現地調査（10月25日）

第2回ワーキング会議（11月3日）

・第4回打合せ（12月15日）

第3回ワーキング会議（1月12日）

・第5回打合せ（1月31日）

・マニュアル完成（3月10日）

40万人のとよなか未来バトン

SDGs to 2030

第1回ワーキング会議

日　時　　令和3年9月16日（木）13:30～15:30

出席者　　環境部（環境政策課・家庭ごみ事業課・減量計画課・美化推進課・公園みどり推進課・
　　　　　　事業ごみ指導課）
　　　　　危機管理課
　　　　　都市基盤部（基盤保全課・維持修繕課）
　　　　　消防局（消防総務課・南消防署）
　　　　　豊中市伊丹市クリーンランド
　　　　　豊中市社会福祉協議会
　　　　　近畿地方環境事務所
　　　　　大阪府環境農林水産部循環型社会推進室資源循環課
　　　　　応用地質株式会社

内　　容　基礎講座
　　　　　ワークショップ

40万人のとよなか未来バトン
SDGs to 2030

ワークショップ
①片付けごみの集積方法別のメリットとデメリット

②「住民の方にしてほしいこと」と「マニュアルに載せる情報」

行政職員等を対象として開催。多様な部局に参加いただき、災害廃棄物の基礎講座から現状と課題の認知、マニュアルの基礎となる住民による災害廃棄物の搬出方法について、それぞれの立場から議論した。

40万人のとよなか未来バトン
SDGs to 2030

第2回ワーキング会議

日　時　令和3年11月3日（水祝）15:00～17:00

出席者　千成町校区自主防災会
庄内西自主防災会
庄内南校区自主防災会
豊中市社会福祉協議会
豊中市一般廃棄物収集運搬委託業者（石原産業(株)・エアーポート企業(株)・米田産業(株)）
環境部（家庭ごみ事業課・減量計画課・公園みどり推進課）
都市基盤部（基盤保全課・維持修繕課）
危機管理課
神戸大学大学院人間発達環境学研究科
近畿地方環境事務所
大阪府環境農林水産部循環型社会推進室資源循環課
応用地質株式会社

内　容　基礎講座
ワークショップ

40万人のとよなか未来バトン
SDGs to 2030

クイズ
①片付けごみの種類
②片付けごみの排出場所

ナッジに関するアンケート
①分別協力の看板

ワークショップ
①片付けごみを出すときの問題とその対処法

住民を代表し3団体の自主防災組織に本市の収集委託業者を加えて開催。災害廃棄物の基礎についての座学と過去の災害時に実際に行った片付けごみの排出に関して意見を交わし、その課題への対処方法を議論した。

40万人のとよなか未来バトン
SDGs to 2030

第3回ワーキング会議

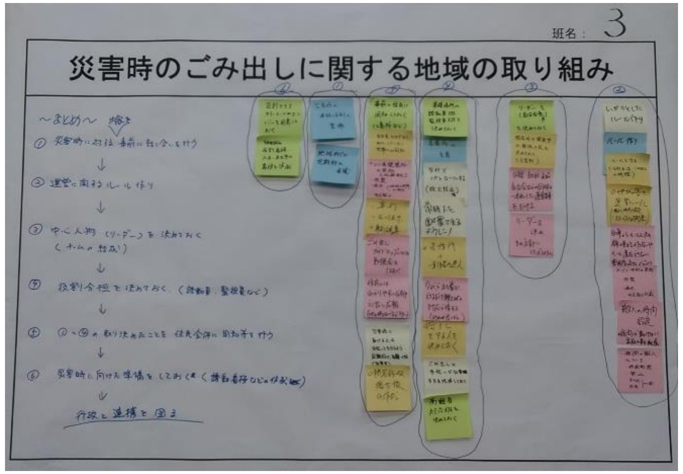
日　時　　令和4年1月12日（水）15:00～17:00

出席者　　千成町校区自主防災会
　　　　　庄内西自主防災会
　　　　　庄内南校区自主防災会
　　　　　豊中市一般廃棄物収集運搬委託業者（石原産業(株)・エアーポート企業(株)・米田産業(株)）
　　　　　豊中市社会福祉協議会
　　　　　環境部（家庭ごみ事業課・減量計画課・公園みどり推進課）
　　　　　都市基盤部（基盤保全課・維持修繕課）
　　　　　危機管理課
　　　　　近畿地方環境事務所
　　　　　大阪府環境農林水産部循環型社会推進室資源循環課
　　　　　応用地質株式会社

内　　容　ワークショップ

40万人のとよなか未来バトン
SDGs to 2030

ワークショップ
①住民用集積所の場所の検討
②住民用集積所のレイアウトの検討
③住民用集積所までの搬入経路と運営の想定
④①～③で気になる問題
⑤災害時のごみ出しに関する地域の取組み



第2回ワーキング会議と同じメンバーで開催。実際に居住する地域で片付けごみの排出場所を検討し、搬入できる片付けごみの種類や量、そのレイアウトや運営主体と方法についても議論を交わした。また、搬出マニュアル素案への意見いただいた。

40万人のとよなか未来バトン
SDGs to 2030

まとめ

住民啓発モデル事業の実施により

・市民啓発の進展
・関連部局・関係団体との連携強化
・自主防災組織との関係強化

などの効果が得られた

40万人のとよなか未来バトン
SDGs to 2030